

# くろ はかま だい 黒 袴 台 遺 跡

現地説明会資料

平成 27 年 1 月 17 日 (土)

佐野市教育委員会

栃木県佐野市田沼町 974-1 TEL 0283-61-1177

— 西浦・黒袴土地区画整理事業地内  
埋蔵文化財発掘調査 —

(公財) とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター

栃木県佐野市黒袴町

栃木県下野市紫 474 TEL 0285-44-8441

## 1 はじめに

黒袴台遺跡は、佐野新都市開発整備事業に伴って、平成 9・10 年に遺跡の南半分の地点で発掘調査が行われ、遺跡の様々な様子が明らかになっていました。

佐野市が計画する西浦・黒袴土地区画整理事業の造成に先立ち、平成 25 年度から、佐野市教育委員会によって黒袴台遺跡の北半分の地区の発掘調査を実施することになりました。現地調査は委託を受けた(公財)とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターが調査を行い、遺跡の新たな発見がありましたので、その成果を広く発表させていただきます。

## 2 発掘調査の成果

- ・縄文時代草創期<sup>そうそうき</sup>～早期<sup>そうき</sup>(今から約 15,000 ～ 8,500 年前)の土器・石器
- ・縄文時代前期(今から約 6,000 年前)の竪穴建物跡 4 軒<sup>おと</sup>、陥し穴状土坑<sup>どこう</sup>
- ・古墳時代前期の墓跡 1 基、後期の竪穴建物跡 23 軒、後期の古墳 7 基
- ・平安時代の竪穴建物跡 4 軒と中世(室町時代)の墓跡多数

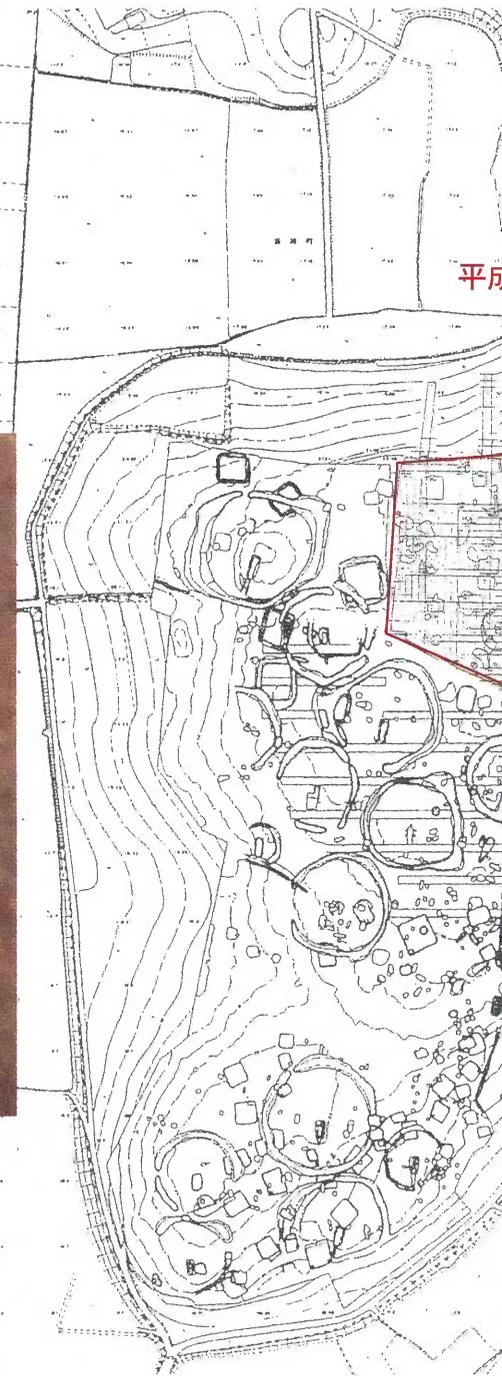


黒袴台遺跡の発掘風景(奥に三轟山が見える・西から)

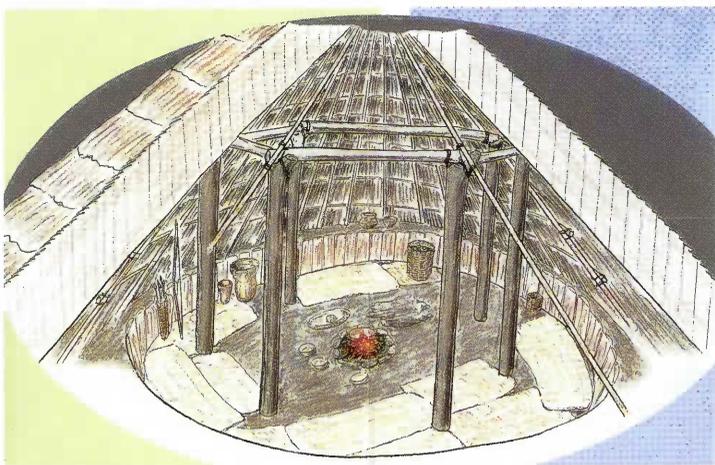
(1) 縄文時代について

縄文時代前期の竪穴建物跡には、建物の柱の穴や、生活で火を焚いた跡が残っていました。建物から出土した縄文土器は「黒浜式」と呼ばれる今から約6,000年前のものです。

縄文時代の人々が集落を営んだ台地の東の縁では、動物捕獲用の陥し穴状土坑が、並んで発見されました。水場に向かって降りる動物たちを狙って配置したと思われます。陥し穴の上面は、木の枝や草で覆った上に土をかけて、隠していたと考えられますが、ここでは「諸磯式」(今から約5,300年前)と呼ばれる縄文時代前期後半の土器が出土しました。



縄文時代前期の竪穴建物跡



竪穴建物跡の模式図



陥し穴状土坑を半分だけ掘った様子

# 遺跡全体図



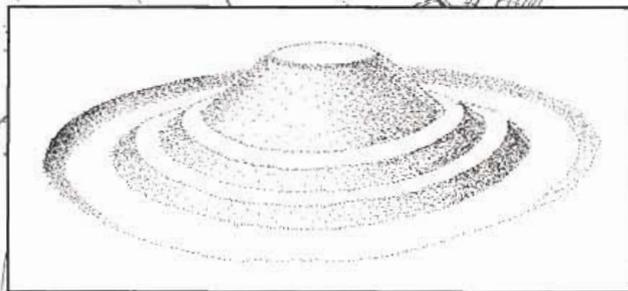
## (2) 古墳時代について

古墳時代の古墳は、平成9・10年度の調査で30基、今回の調査で新たに7基が発見されました。いずれも古墳時代の終わりごろ（古墳時代後期：今から約1,500～1,400年前）のものです。古墳は径15～19m程度の円墳で、埋葬施設である横穴式石室からは鉄刀、鉄鏃などの武器や、金銅製耳環、ガラスの小玉など、当時の装飾品の数々が発見されました。

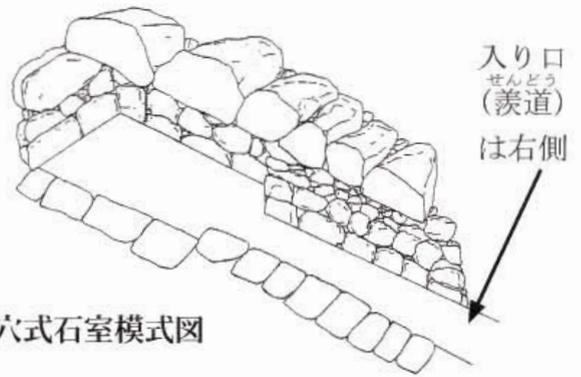
黒袴台遺跡では、同じ時期の竪穴建物（住居）を壊して、その直後に古墳を作っている例が多く、短期間で居住域から墓域に変化したことが分かりました。



横穴式石室



円墳模式図



横穴式石室模式図

## (3) 中世について

中世（室町時代：今から600～700年前）の墓地に関する遺構や遺物が多数発見されました。

墓穴は、平面形が四角いものや丸いもの、火葬した骨が出土しているもの、遺体の手足を折り曲げて小さな穴に納めたものなどがあり、多様です。古銭、土器が出土した墓穴もありました。墓石は、五輪塔や板碑が出土しました。

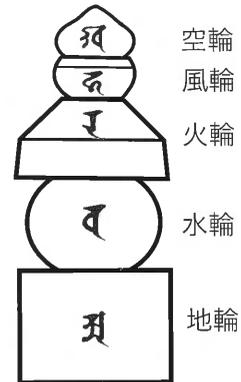
墓穴や墓石以外にも、作業小屋と考えられる方形竪穴遺構や、井戸、多数の建物の柱穴が発見され、墓地や葬儀に伴う何らかの儀式をした施設があったと考えられます。

墓石として、五輪塔や板碑が出土しました。五輪塔とは、下から四角(六面体)・丸(球)・三角(四角錐)・半丸(半球)・上の尖った丸(宝珠型)を積み上げた形に作られた塔です。下から地輪、水輪、火輪、空風輪の4つの部品で構成されています。

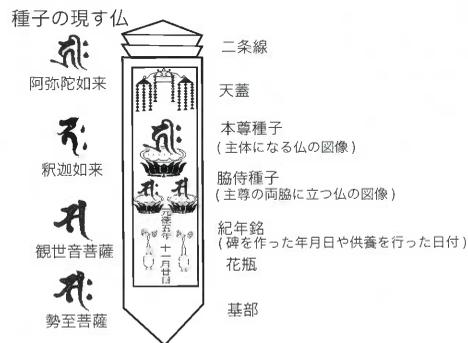
今回の調査では空風輪が2点見つかりました。板碑は板状の石塔(石製の塔婆)で、おもに秩父・長瀬産の緑泥片岩で作られています。



五輪塔の一部が出土した状況



五輪塔の部分名称



板碑の部分名称



板碑が出土した状況



中世人骨調査状況

### 3 おわりに

今回の発掘調査で、黒袴台遺跡の全体を調査したことになります。今後、出土した土器や石器を整理・調査し、報告書を作成する予定です。